

イエローチョーク作戦の 効果について

山形市動物愛護センター

笹原 智世

はじめに

- 山形市では、これまで路上に放置された犬のフンに関する相談に対応してきたが、なかなか解決には至らなかった。
- 新たな対策として、令和4年4月1日よりイエローチョーク作戦を実施した。

これまで

- ・ 町内会に適正飼養のチラシの配布
- ・ 個人に掲示用ポスターの配布

新たに

- ・ イエローチョーク作戦



イエローチョーク作戦とは

京都府宇治市が考案し、平成28年1月から実施した取組み

放置された犬の
フンをチョークで
囲む



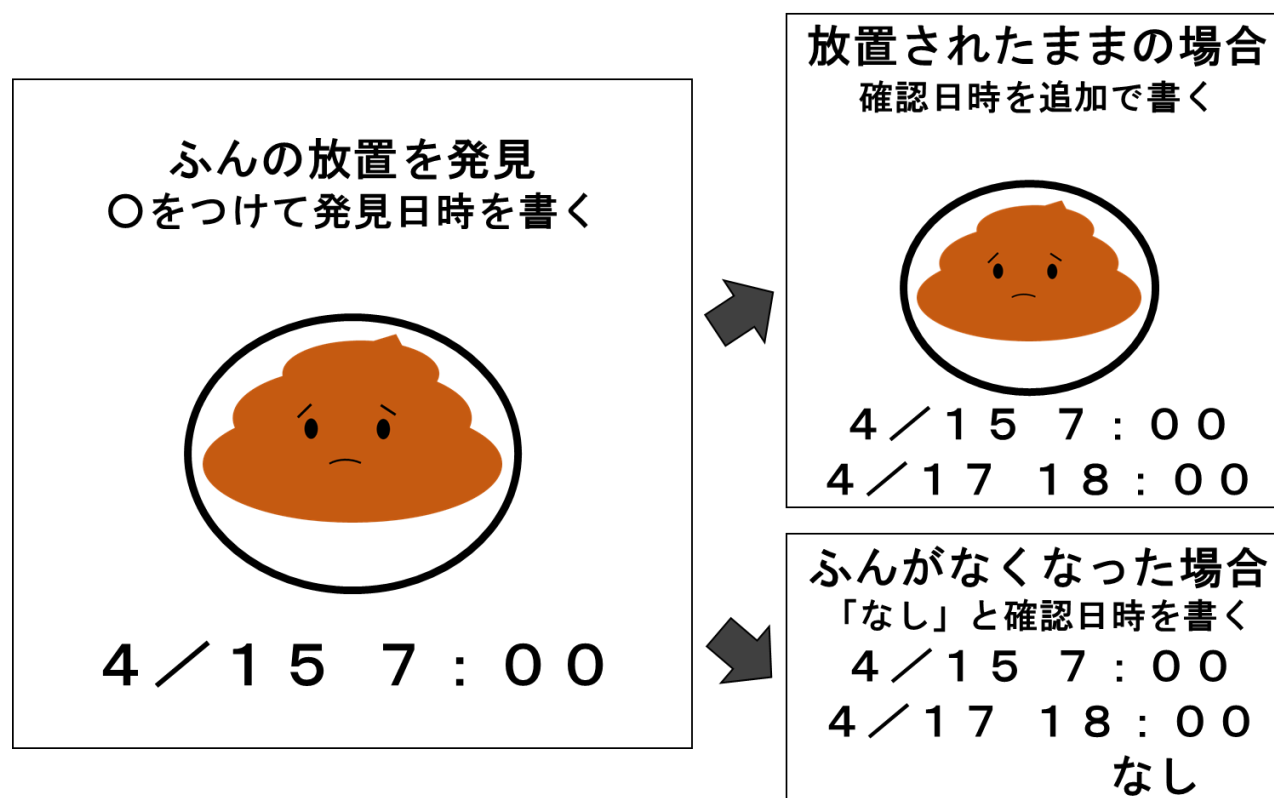
困っている人が
いることを飼い主
に認識してもらう



飼い主のマナー向上、
フン放置をなくす

山形市における イエローチョーク作戦実施方法

- 実施者
市民や町内会等の団体
- 実施場所
実施者が居住する地域
(私有地等や実施地域外では実施しない)



実施前によくある質問

- ・ フンは誰が片付けるの？
- ・ 雨が降ったらチョークは消えるの？
- ・ 草むらにフンが放置されていたらどうするの？
- ・ 公園で実施していいの？

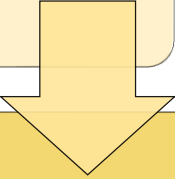


イエローチョーク作戦実施の流れ

実施者 相談・届出書の提出



山形市 イエローチョークの配布・(腕章の配布)



実施者 作戦実施・報告書の提出

アンケート調査について

- 調査期間：令和4年3月1日（受付開始）～令和4年12月末
- 実施方法：報告書の提出または電話での聞き取り調査
- 調査内容：
 - 【設問1】イエローチョーク作戦の効果について
 - 【設問2】実施地域の住民の反応について
 - 【設問3】実施地域の住民の犬のフン放置に対する意識変化について

届出数 および 回答数

	町内会	個人	その他団体 ※1	合計
届出数	7	19	4	30
回答数	5	15	2	22 ※2

※1 町内会を除いた団体

※2 個人1名より7件の複数回答あり

効果 および 地域住民の反応

【設問1】イエローチョーク作戦の効果について

- 実施期間中はフンの放置を見かけなくなった
- 離れた場所でフンの放置をみかけるようになった
- 草むらの場合はチョークで印をつけることができない
- 雨が降るとチョークが消えるため効果が限定的

【設問2】実施地域の住民の反応について

〈個人〉

- 興味を示したものの手続き等を面倒に感じて実施には至らなかった

	町内会	個人	その他の団体
【設問 1】			
大変効果がある	1	0	0
少しは効果がある	2	6	0
効果がなかった	0	2	0
どちらともいえない	2	7	2
【設問 2】			
協力的だった	4	0	0
非協力的だった	0	1	0
無関心だった	0	4	0
わからない	1	10	2

地域住民の意識 および その他意見

【設問3】実施地域の住民の意識について

〈町内会〉

- 実施前より見かけなくなり、一定の効果があった
- 実施前のチラシの回覧が犬の飼い主にとって警告に繋がったのであろう

〈個人〉

- フンの放置は一度なくなるが、再発するため地域住民の意識変化がない

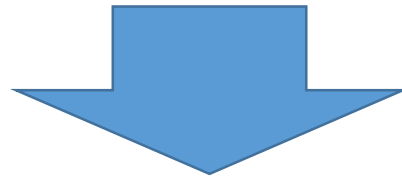
その他意見

- チョークよりも看板の方が効果的だった
- 来年度も継続して実施したい
- もっと周知してほしい

	町内会	個人	その他の団体
【設問 3】			
変化があった	1	2	0
多少変化があった	2	1	0
変化がなかった	1	5	1
どちらともいえない	1	7	1

考察

- イエローチョーク作戦は一定の効果がある。
- しかし、フン放置を完全になくすことができていない。(他の場所にフンを放置する等)
- 町内会で実施した方が地域住民の協力が得られやすく、効果は高い。



地域で取組むことで
地域住民の意識が変わる⇒効果アップ！

地域の目が働く！
(誰かが見ている)



まとめ

イエローチョーク作戦を実施しても、依然としてフンを放置する飼い主がいる！！

〈飼い主にマナーを守ってもらうために〉

- 市全体でマナーの共有

→イエローチョーク作戦を情報発信し、認知度を上げる

- 地域の目を働かせる

→被害のある地域に対し、啓発チラシの配布等を行い、
地域への周知を強化

- 個人に対する意識啓発

→センターに来所した犬の飼い主に対して、啓発チラシの配布

